「県教育委員会賞」作品を紹介します

ちがっていい

下諏訪社中学校二年　小河原　康志

僕は毎日、注射をうっています。なんの注射かというと、身長のための注射です。生まれた時から体が小さく、弱い僕は、よく病院に行っていました。ずいぶんと成長した今でも、同年代の人達と比べて、僕は運動があまり得意な方ではなく…というか、運動が苦手です。球技をやればそんなに積極的に動いているわけでもないのに、骨折したり、陸上では記録はとっても低い方だったり、とにかく運動がだめなのです。そんな僕は、小さいころ、よく背が低いことをからかわれたりしていました。相手は軽い気持ちで言っていたのでしょうが、幼いながらも、自分が低身長だという事実を気にしていた僕にとって、そんなに軽いことではありませんでした。一回一回のその言葉がとてもいやだったのを覚えています。

そんな中でも、僕は毎日笑って過ごせたと思います。なぜなら、僕の周りには、支えてくれる人達がいたからです。例えば、同級生の中に、僕を持ち上げて、水道で手を洗わせてくれたり、高い所にある物をとってくれたり、かわりに走ってくれたりする人がいました。声をかけると、必ず笑って返事をしてくれて、楽しいと思わせてくれる人もいました。僕の話を飽きずに聞いてくれて、喜んでくれる妹達、一番最初の遊び相手で、おもしろい兄、楽しい叔母、いろいろとやらせてくれた祖父と父。そして、誰よりも小さくて弱い体で生まれてきて、迷惑をかけまくっているけれど、本当に生まれた瞬間から今まで、支えてくれた、母。あらためて振り返ってみると、もう少しいるけれど、こんなにたくさんの人に支えてもらって生きてきたんだなぁ。決してみんな楽じゃなかっただろうし、利益になることも無かったと思うけれど、やっぱり、こういう人達には、本っ当に感謝です。

こうやって、「身長が低く、運動が苦手」という短所をせおって生きてきましたが、正直、この短所を、僕は恥ずかしいともなんとも思いません。だって、短所なんて誰にでもあるのだから。誰一人同じ人間なんていないのだから、その数の分、長所も短所もあると思うんです。かといって、ただ短所を放っておきはしません。その短所を無くす努力も、しっかりやります。

それと、思ったのですが、「身長が低くて運動が苦手」なんてとても小さい短所ではないでしょうか。だって、この世の中には、た～くさんの人が、それぞれ障害を持っていて、それはとっても大きく、重いものだと思うんです。その中で、僕の短所は、たかが身長が低くて運動が苦手なことであって、普通より少しだけ大変だけれど、みんなと同じように生きていけます。それに僕の短所というのは、確かに身体的なものではあると思うけれど、結局は気持ちの問題だと思います。自分が自分の短所をどうとらえるかで決まり、それをどうやって乗りこえ、自分のものにするかを、考えて、実現できるのだから、僕は、幸せな境遇にあると思います。

人はやっぱり、「十人十色」と言うように、十人いれば十通りの長所・短所、生き方がある、同じ人なんていない生き物だと思います。「私と小鳥と鈴と」という詩を知っていますか？この中で金子みすゞさんは、みんなちがってみんないい、と歌っています。悪いところ、短所は人には必ずある、いやなものですが、それぞれに良い面、長所もあるはずです。たとえ自分の短所を指摘されたとしても、変なやつだと言われても、それは全くなんでもないことです。だって、一人一人がちがう中での「ふつう」なんて、無いのですから。変わっていて、当たりまえ。みんなちがってみんないい。

今の世の中は、人の短所をひたすら非難して、長所を見ようとせず、相手を追いつめ、傷つけてしまうような人がたくさんいます。短所を一方的に責められるのは、つらいことです。長所を見つけられないのは、悲しいことです。一人一人がちがう人間という生き物の社会で、短所を責め、長所を無視するのではなく、相手の短所を分かってやり、長所をしっかりと見てあげる。そんな関係を持ち、明るい社会を作れるのだと思います。

町立図書館のコーナー

こどもの読書週間　4／23～5／12

子どもたちにもっと本を、もっと本を読む場所をとの願いから、「こどもの読書週間」は1959年（昭和34年）に誕生しました。幼少のときから書物に親しみ、読書の喜びや楽しみを知り、ものごとを正しく判断する力をつけておくことが、子どもたちにとってどんなに大切なことか……。子どもに読書を勧めるだけでなく、大人にとっても子どもの読書の大切さを考えるとき、それが「こどもの読書週間」です。これを機会に、こんな事に取り組んでみませんか。

・図書館で自分が子どもの時に読んだ話を探す。
・親は子の鏡。まずは大人が読書しましょう。
・テレビやパソコンを消し、読書の時間を作りましょう。

図書館でもお楽しみパックに夢のある絵本を入れてみなさんのご来館をお待ちしています。

四月のこえ

四月。入学・就職・引越しなど新生活をスタートする季節です。

四月になると、下諏訪町へ引越してきた頃を思い出します。新しい環境での生活は、出産や上の子の入園も重なりてんてこまい。日々の買物をするお店や子どもを連れて行く病院の場所など何もかもがわからず不安でいっぱいでした。そんな時、保育園のお母さん友達や近所の皆さんが気さくに話しかけてくださり、下諏訪町という地域の温かさに触れ「ああ、いいところに来たなぁ。」と実感したことを昨日のことのように覚えています。

人の温かさに触れると頑張ろうというエネルギーが湧いてきます。感謝の気持ちも生まれ心が豊かになります。

この春、新たに下諏訪町民になられた方もいるはず。手を差し伸べ温かい言葉をかけ、人と人との温かい輪を広げていきたいものです。

（御子柴友香）